

謎に満ちた
豪華源氏物語絵巻の
本格研究書、
ついに刊行！
国内外に散らばる絵巻の画像が、
この一冊に集結！

思文閣出版

佐野みどり・小嶋菜温子・高橋亨 編

「幻の源氏物語絵巻」 をもとめて

十七世紀、絵巻の時代と古典復興



【カラー図版一覧】

- 桐 壺 上中下三巻(絵全十五図／詞書全十八段および跋文・奥書)(個人蔵)
- 帚 木 第三巻(穂の巻)(絵全四図)(ニューヨーク・パブリック・ライブラリー・スペンサー・コレクション蔵)
- 空 蟬 残欠巻(絵全六図／詞書全七段)(石山寺蔵)
- 夕 顔 断簡(絵一図／後補詞書一段(桐壺))「夕顔の死」(個人蔵)
- 末摘花 上巻(絵全六図／詞書全七段)(石山寺蔵)
中巻(絵全六図)(ニューヨーク・パブリック・ライブラリー・スペンサー・コレクション蔵)
下巻(絵全六図)(ニューヨーク・パブリック・ライブラリー・スペンサー・コレクション蔵)
- 葵 六巻(色・聲・香・味・触・法の巻)(京都国立博物館蔵)
断簡(絵一図)「葬礼図」(メトロポリタン美術館蔵)
- 賢 木 断簡(絵一図)第二巻第四段[第八段「三条宮で源氏、冬の庭を眺める」](個人蔵)
断簡(絵一図)第三巻第四段[第十三段「藤壺との逢瀬」](個人蔵)
断簡(絵一図)第三巻第五段[第十四段「東宮殿で藤壺、東宮と対面」](個人蔵)
断簡(絵一図)第四巻第四段[第十八段「源氏、雲林院を出立」](個人蔵)
断簡(絵一図)第五巻第一段[第二十七段→第二十二段「藤壺と源氏、歌を詠み交わす」](個人蔵)
断簡(絵一図)第五巻第四段[第二十四段「藤壺の出家」](メトロポリタン美術館蔵)
断簡(絵一図)第六巻第一段[第二十八段「二条院での韻塞ぎ」](メトロポリタン美術館蔵)
断簡(絵一図)第六巻第二段[第二十九段「中将邸での負け態」](個人蔵)
断簡(絵一図)第六巻第三段[第三十段「右大臣邸に里帰り中の朧月夜と逢瀬」](個人蔵)
詞書(個人蔵)より第二巻第一段・第二段、第四巻第一段・第二段、第五段・第六段、第五巻第四段・第五段

「幻の源氏物語絵巻」 をもとめて 十七世紀、絵巻の時代と古典復興

A4判横綴じ函入・504頁
(図版編・カラー246頁／論文編・モノクロ256頁)
ISBN978-4-7842-2110-3 C3071
定価:38,500円(税込)

発行：思文閣出版 〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-533-6860 fax.075-531-0009 <https://www.shibunkaku.co.jp> E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

冊 数	冊	「幻の源氏物語絵巻」をもとめて 十七世紀、絵巻の時代と古典復興	本体35,000円(税別) ISBN978-4-7842-2110-3
お名前		tel	
		e-mail	
ご住所	〒		
送本方法		代引 (書籍+消費税を現品と引き換えにお支払い、送料・代引き手数料は弊社負担) ◎ 最寄りの書店・ネット書店でもお買い求め、お取り寄せできます ◎	



本書 HP QR コード

【図版編】と【論文編】の二部構成

- ◎ 国内外に散らばる「幻の源氏物語絵巻」の絵部分の画像を全てカラーで一挙掲載！
- ※ 詞書については、帚木巻と末摘花中・下巻は未掲載、賢木は部分掲載
- ◎ 国文学・美術史学研究者15名の論考によって絵巻を徹底分析
- ◎ 京都国立博物館蔵・葵六巻の全画像を初公開
- ◎ 2024年夏に石山寺で発見された空蟬残欠巻の画像を初公開

目次

【図版編】

※掲載図版の詳細については、裏面をご覧ください。

桐壺 上中下三巻(個人蔵)

帚木 第三巻(穂の巻)

(部分、ニューヨーク・パブリック・ライブラリー・スペンサー・コレクション蔵)

空蟬 残欠巻(石山寺蔵)

夕顔 断簡(絵一図/後補詞書一段(桐壺))「夕顔の死」(個人蔵)

末摘花 上巻(石山寺蔵)

中・下巻(部分、ニューヨーク・パブリック・ライブラリー・スペンサー・コレクション蔵)

葵 六巻(京都国立博物館蔵)

断簡「葬礼図」(メトロポリタン美術館蔵)

賢木 断簡(個人蔵/メトロポリタン美術館蔵)

詞書(部分、個人蔵)

【論文編】

「総論」 「幻の源氏物語絵巻」と(ものまぎれ)——「注釈的絵画」に

みる再創造と文学／美術史学の可能性……………小嶋菜温子

第一部 「幻の源氏物語絵巻」の復元にむけて

盛安本源氏物語絵巻(幻の源氏物語絵巻)再考……………佐野みどり

物語絵画としての盛安本源氏物語絵巻

——『源氏物語』の年立を通した一考察……………エステル・ポエール

源氏物語絵巻 桐壺

——幻の「源氏物語絵巻」巻頭巻としての意義……………吉川美穂

京都国立博物館蔵「源氏物語絵巻」葵から——メトロポリタン美術館蔵断簡

「葬礼図」の定位とあわせて……………松岡知華

パーク本「源氏物語絵巻」賢木巻断簡から……………稲本万里子

「コラム」 「幻の源氏物語絵巻」の詞書と絵画化

——物語全文を書き写すことの意味……………青木慎一

「特別寄稿」石山寺所蔵 空蟬残欠巻……………田中水萌

第二部 十七世紀、絵巻の時代と古典復興

九条家の源氏学と絵画……………高橋亨

「幻の源氏物語絵巻」の製作背景追考

——九条家・賀茂社家の人々とその環境をめぐって……………海野圭介

鹽竈神社蔵「絵詞保元・平治」をひもとく

——杉原盛安・杉原本と「保元・平治物語絵巻」……………鈴木彰

「幻の源氏物語絵巻」の「空蟬」

——中世・近世の『源氏物語』享受とその展開……………水谷隆之

室町時代やまと絵と源氏絵の再生

——大画面の出現と土佐光信・光茂・光元による新展開……………高岸輝

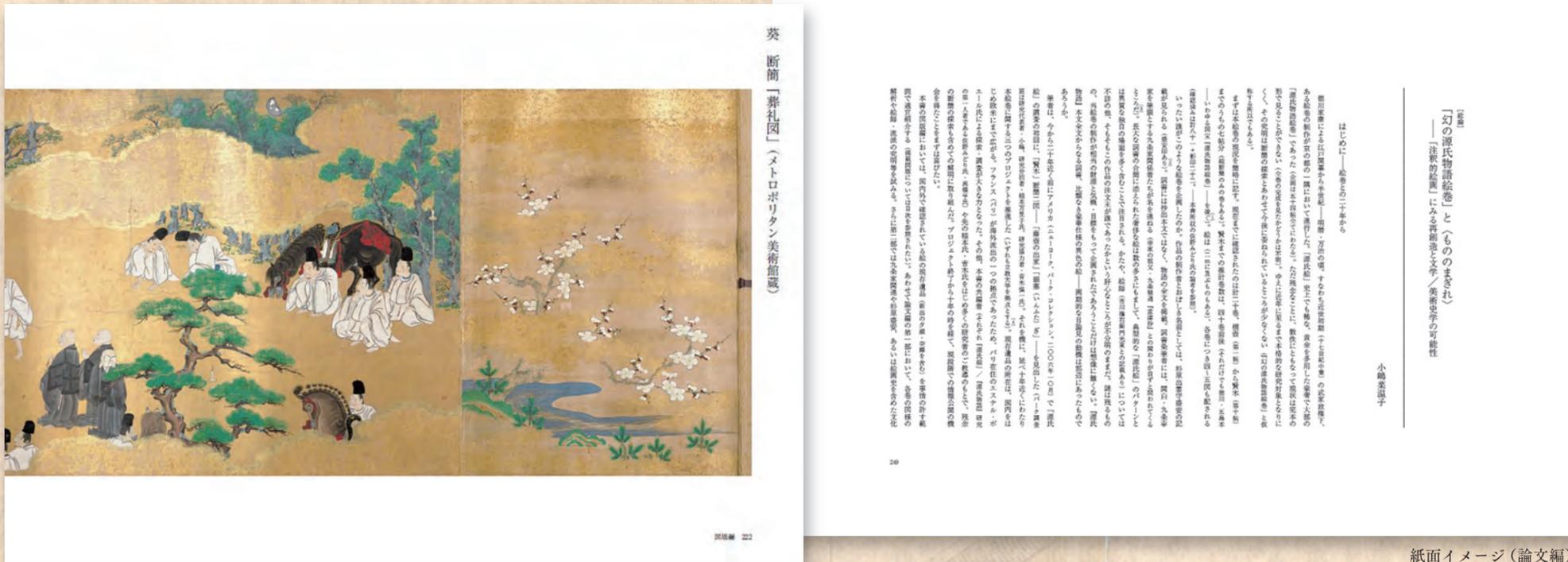
「コラム」 近世絵巻の研究に向けて……………若杉準治

「結び」 本書の成果と今後の課題……………高橋亨

「源氏絵」の歴史のなかでも際立つ個性を有している「幻の源氏物語絵巻」(盛安本源氏物語絵巻)。黄金をふんだんに使用した豪華な造りに加え、通常の源氏絵では忌避されてきた出産・死・密通などの場面も描く。さまざまな形態で国内外に散らばるこの豪華絵巻群の全体像は、謎に包まれている。現在までに存在が確認されているのは二〇巻弱、完本で揃っていたとすれば、全体で二〇〇巻を超すものであった可能性がある。誰がどのような意図のもとで、このような絵巻を制作しようとしたのか。詞書染筆者の問題も含めて、江戸時代初期の文化史・政治史・経済史的な状況を見渡しての検証が必須となる。

日本文化史のミッシングリンクというべきこの豪華絵巻の謎に迫るべく、【図版編】には絵巻の全カラー図版(※)を掲載。【論文編】には国内外の15名の国文学研究者・美術史研究者が集結し、多角的な分析を試みる。

※詳しくは裏面【カラー図版一覧】を参照。



紙面イメージ(図版編)

紙面イメージ(論文編)

